



## 未来医学研究会への期待

# 世界を見据えた 医療イノベーションの実現に向けて

片岡 一則 Kazunori Kataoka

東京大学大学院工学系研究科／医学系研究科 教授

今日は8月24日、この原稿のメ切り日が明日である事に気がついて急遽、机に向かっています。

本日の日経新聞の朝刊第一面は、日本の医療機器が大幅な輸入超過であり看過できない、今こそ医療機器を含めて日本の医療システムを海外に売り込む事が肝心であると勇ましく伝えていました。

元々、医療機器開発の素地は日本にあったにも関わらず、長きにわたる鎖国政策の末に、今日を迎えた訳ですし、その間、マスコミの論調も医療産業を強化して日本の未来の医療システムを支えるという考えには必ずしもくみしていなかったように思います。

しかし、未来医学研究会では、今日のこのような事態を早くから認識し、真に未来の医療を変えるようなイノベーションを皆で考えようとしてきたわけですから、まさに、干支で言えば二周り、いや三周りも進んでいたのだと思います。

私の研究者としての経験は女子医大から始まりました。今で言う産学官の医工連携、いや、医工融合の取り組みはその頃の女子医大では既に実践されており、まさに次代を先取りする櫻井先生の慧眼であったと思います。

私は、その後、東京理科大学、そして東京大学と研究の場を変えて行った訳ですが、そこで行ってきたことの原点はすべて女子医大で学んだと言っても過言ではありません。所属する企業や機関の中に閉じこもらず、医療の最前線とともに学びながら、かつ新しい課題にチャレンジする場として、単なるお仕着せではない、次代を二周りも三周りも先取りする医療の真の成長戦略を未来医学研究会から発信していく事がこれからも強く期待されると確信しています。

## ●略歴

1979年東京大学大学院博士課程修了（工学博士）。1979年東京女子医科大学助手、1986年同講師を経て1988年同助教授。1989年東京理科大学基礎工学部助教授、1994年同教授を経て、1998年より東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻教授。2004年より東京大学大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター教授を併任。主な受賞として、日本バイオマテリアル学会賞（1993年）；高分子学会賞（2000年）；Clemson Award, Society for Biomaterials（2005年）；Founder's Award, Controlled Release Society（2008年）；NIMS Award（2009年）；文部科学大臣表彰科学技術賞（2010年）；フンボルト賞（2012年）；江崎玲於奈賞（2012年）；高分子学会高分子科学功績賞（2014年）。専門分野は、バイオマテリアル、ドラッグデリバリーシステム